

氏名 (法人にあっては名称)	株式会社 福屋
住所	広島市中区胡町6番26号
計画期間	平成 22 年 4 月 1 日 ~ 平成 25 年 3 月 31 日
基準年度 (*1)	平成 21 年度

1 事業者の要件 ((1)、(2)については、特定年度(\*2)における市内に設置された全ての事業所の合計量)

該当する事業者の要件	<input checked="" type="checkbox"/> (1)原油換算エネルギー使用量(*3)が1,500キロリットル以上 (特定事業者) <input type="checkbox"/> (2)エネルギー起源二酸化炭素を除く物質ごとの温室効果ガス排出量(*4)が3,000トン以上 (特定事業者) <input type="checkbox"/> (3)特定事業者以外の事業者
------------	---

2 事業の概要

事業者の業種	百貨店, 総合スーパー
事業概要	百貨店

3 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の実施状況等

(1) 温室効果ガス排出量の抑制に関する目標の達成状況

(※温室効果ガス排出量の下段は削減量の対基準年度比  $((a-b)/a) \times 100$  (aは基準年度の実排出量) )

項目	基準年度の実績 a	計画期間の目標 b	計画期間の実績 b			
	平成 21 年度	平成22~24年度 (平均値)	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成22~24年度 (平均値)
温室効果ガス実排出量 (*5)	23,700 t-CO <sub>2</sub>	23,580 t-CO <sub>2</sub>	22,033 t-CO <sub>2</sub>	24,320 t-CO <sub>2</sub>	t-CO <sub>2</sub>	t-CO <sub>2</sub>
		0.5 %	7.0 %	-2.6 %	%	%
温室効果ガスみなし排出量 (*6)		23,580 t-CO <sub>2</sub>	22,033 t-CO <sub>2</sub>	24,320 t-CO <sub>2</sub>	t-CO <sub>2</sub>	t-CO <sub>2</sub>
		0.5 %	7.0 %	-2.6 %	%	%
実績に対する自己評価	原油換算エネルギー使用量は前年比4%減であったが、買電の排出係数が15.9%増となり排出量が2.6%増となった。					

- \*1 基準年度とは、温室効果ガスの抑制割合を比較する基準の年度であり、原則として特定年度(\*2)とする。なお、基準年度の温室効果ガス実排出量(\*5)については、事業活動の著しい変動等により特定年度が基準年度として適当でないときは、事業者の判断により、特定年度を含む連続した過去3か年度の平均値とすることができる。
- \*2 特定年度とは、計画期間となるべき期間の最初の年度の前年度をいう。
- \*3 原油換算エネルギー使用量とは、燃料の量並びに他人から供給された熱及び電気の量をそれぞれ発熱量に換算した後、原油の数量に換算した量の合算をいう。
- \*4 温室効果ガス排出量とは、二酸化炭素(エネルギー起源のもの及び非エネルギー起源のもの)、メタン、一酸化二窒素、ハイドロフルオロカーボン、パーフルオロカーボン及び六ふっ化硫黄)の排出量を二酸化炭素の数量に換算したものをいう。
- \*5 温室効果ガス実排出量とは、上記(\*4)のうちエネルギー起源二酸化炭素の排出量と、それ以外の物質ごとの温室効果ガス排出量が特定事業者単位で3,000トン以上のものの排出量の合算をいう。
- \*6 温室効果ガスみなし排出量とは、上記(\*5)に対して環境価値(\*8)に相当する温室効果ガスの削減量等を調整したものをいう。なお、環境価値が活用されないときの温室効果ガスみなし排出量は、温室効果ガス実排出量と等しくなる。

(2) 事業分類ごとの原単位(\*7)の抑制に関する目標の達成状況 (※任意記載)

(※原単位の下段は削減量の対基準年度比  $((a-b)/a) \times 100$  )

事業分類	基準年度の 実績 a	計画期間の 目標 b	計画期間の実績 b			
	平成 21 年度	平成22~24年度 (平均値)	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成22~24年度 (平均値)
		%	%	%	%	%
		%	%	%	%	%
		%	%	%	%	%
原単位の指標及び 実績に対する 自己評価						

(3) 温室効果ガス実排出量の抑制に関する措置の実施状況

空調の設定温度の見直しによるエネルギー負荷の低減および高効率照明への順次更新を中心として排出量の抑制を図る。また、電気、水道、ガスの効率的な使用を進めると共に、省エネ機器の導入により、温室効果ガス実排出量を抑制する。

- 計画初年度より、従来より行っている夏期の冷房の設定温度平均26℃の維持運用を行う
- 計画初年度より、高効率変圧器の導入  
計画期間におけるCO2削減量見込み・・・283t
- 計画初年度より、LED型誘導灯器具へ順次更新
- 計画2年度より、八丁堀本店、ダウンライトの一部消灯実施。
- 計画3年度より、広島駅前店、ダウンライトの一部消灯実施。一部LED化を計画。

(4) 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する措置の実施状況 (環境価値(\*8)の活用等)

特になし

4 その他の取組の実施状況

- ・従業員教育を行い従業員の意識啓発を行う。
- ・廃棄物の分別処理を確実にを行う。

\*7 原単位とは、温室効果ガス排出量を生産量、延べ床面積等の当該排出量と密接な関係を持つ値で除したものをいう。  
 \*8 環境価値とは、オフセットクレジット制度等により、温室効果ガスの排出削減等を行うプロジェクトを通じて生成される温室効果ガスの削減量等をいう。なお、温室効果ガスみなし排出量(\*6)の調整対象となる環境価値は市内分とし、市長が認めるものに限る。

大規模事業所ごとの温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置及び目標の実施状況等

(※大規模事業所を設置していない事業者は提出不要)

事業所の名称	株式会社 福屋 八丁堀本店
事業所の所在地	広島市中区胡町6番26号
事業所の業種	百貨店, 総合スーパー
事業の概要	百貨店

1 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の実施状況等

(1) 温室効果ガス排出量の抑制に関する目標の達成状況

(※温室効果ガス排出量の下限は削減量の対基準年度比  $((a-b)/a) \times 100$  (aは基準年度の実排出量) )

項目	基準年度の実績 a	計画期間の目標 b	計画期間の実績 b			
	平成 21 年度	平成22~24年度 (平均値)	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成22~24年度 (平均値)
温室効果ガス 実排出量 (*4)	8,620 t-CO <sub>2</sub>	8,533 t-CO <sub>2</sub>	7,945 t-CO <sub>2</sub>	8,871 t-CO <sub>2</sub>	t-CO <sub>2</sub>	t-CO <sub>2</sub>
		1.0 %	7.8 %	-2.9 %	%	%
温室効果ガス みなし排出量(*5)		8,533 t-CO <sub>2</sub>	7,945 t-CO <sub>2</sub>	8,871 t-CO <sub>2</sub>	t-CO <sub>2</sub>	t-CO <sub>2</sub>
		1.0 %	7.8 %	-2.9 %	%	%
実績に対する 自己評価	原油換算エネルギー使用量は前年比2.5%減であったが、買電の排出係数が15.9%増となり排出量が2.9%増となった。					

(2) 温室効果ガス実排出量の抑制に関する措置の実施状況

<p>空調の設定温度の見直しによるエネルギー負荷の低減および高効率照明への順次更新を中心として排出量の抑制を図る。また、電気、水道、ガスの効率的な使用を進めると共に、省エネ機器の導入により、温室効果ガス実排出量を抑制する。</p> <p>○計画初年度より、従来より行っている夏期の冷房の設定温度平均26℃の維持運用を行う</p> <p>○計画初年度より、高効率変圧器の導入 計画期間におけるCO2削減量見込み・・・283t</p> <p>○計画2年度より、八丁堀本店、ダウンライトの一部消灯実施。</p>
--

(3) 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する措置の実施状況 (環境価値の活用等)

特になし
------

2 その他の取組の実施状況

<ul style="list-style-type: none"> <li>・従業員教育を行い従業員の意識啓発を行う。</li> <li>・廃棄物の分別処理を確実にを行う。</li> </ul>
--

大規模事業所ごとの温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置及び目標の実施状況等

(※大規模事業所を設置していない事業者は提出不要)

事業所の名称	株式会社 福屋 広島駅前店
事業所の所在地	広島市南区松原町9番1号
事業所の業種	百貨店, 総合スーパー
事業の概要	百貨店

1 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の実施状況等

(1) 温室効果ガス排出量の抑制に関する目標の達成状況

(※温室効果ガス排出量の下段は削減量の対基準年度比  $((a-b)/a) \times 100$  (aは基準年度の実排出量) )

項目	基準年度の実績 a	計画期間の目標 b	計画期間の実績 b			
	平成 21 年度	平成22~24年度 (平均値)	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成22~24年度 (平均値)
温室効果ガス 実排出量 (*4)	11,500 t-CO <sub>2</sub>	11,500 t-CO <sub>2</sub>	10,761 t-CO <sub>2</sub>	11,980 t-CO <sub>2</sub>	t-CO <sub>2</sub>	t-CO <sub>2</sub>
		0.0 %	6.4 %	-4.2 %	%	%
温室効果ガス みなし排出量(*5)		11,500 t-CO <sub>2</sub>	10,761 t-CO <sub>2</sub>	11,980 t-CO <sub>2</sub>	t-CO <sub>2</sub>	t-CO <sub>2</sub>
		0.0 %	6.4 %	-4.2 %	%	%
実績に対する 自己評価	原油換算エネルギー使用量は前年比3.4%減であったが、買電の排出係数が15.9%増となり排出量が4.2%増となった。					

(2) 温室効果ガス実排出量の抑制に関する措置の実施状況

空調の設定温度の見直しによるエネルギー負荷の低減および高効率照明への順次更新を中心として排出量の抑制を図る。また、電気、水道、ガスの効率的な使用を進めると共に、省エネ機器の導入により、温室効果ガス実排出量を抑制する。  
 ○計画初年度より、従来より行っている夏期の冷房の設定温度平均26℃の維持運用を行う  
 ○中長期計画は広島駅南口開発(株)の計画に準ずる  
 ○計画3年度より、広島駅前店、ダウンライトの一部消灯実施。一部LED化を計画。

(3) 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する措置の実施状況 (環境価値の活用等)

特になし

2 その他の取組の実施状況

・廃棄物の分別処理を確実に行う。